

令和7年度 特色ある学校づくり推進事業報告書

『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

1 目的

変化の激しい現代社会、状況に合わせて目標を立て、前向きに行動できる力を児童に身に付けさせることは、今日の教育の重要な課題であり、そのためには豊かな心の醸成が必要です。

本校は、学校名の由来ともなった戦国武将「福島正則公」の菩提寺である菊泉院を校区にもち、地域のみなさんに温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めています。保護者には卒業生も多く、地域の力は本校になくてはならないものになっています。

そこで、日頃から地域の方々と積極的に関わり、学校内外における自然体験や社会的活動を行うことを通して、地域の一員としての自覚をもたせ、地域の力を生かすことで児童の自己肯定感を高め、健やかに育てていきたいと考えます。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

母校や地域を誇りに思う気持ちをもってこの学校を卒業してもらいたいと、各学年で「福島正則公」を中心に据え、様々な学習に取り組んでいます。「Project MASANORI」も9年目となり、児童の中に学年なりの「福島正則公」が浸透してきました。

「福島正則公」の終焉の地である長野県の小布施町立栗ガ丘小学校との5年生の交流学習も4年目を数え、タブレットとモニターを使ってzoom交流を行いました。顔合わせの自己紹介、自分たちが暮らすあま市について、そして自分たちで取材してまとめた、正則小の各学年で学習していることなどを発表しました。栗ガ丘小学校からは、小布施に縁のある葛飾北斎についての話題を中心に山地のくらしや特産物・観光名所などを紹介してもらい、互いに質問し合いました。

4年生は、かつて福島正則公が城主となった清洲城を見学しました。また、あま市歴史民俗資料館の方にお越しいただき、クイズなどを通して「福島正則公」についてその功績を深く学ぶ出前講座を行っていただきました。

3年生は地域探検で、正則公の生誕に関する建造物（菊泉院、石碑）などを見学し、菊泉院前住職による講話や座禅体験を行いました。

6年生は、地域で和菓子を製造販売している「芳春軒」店主を講師に迎え『ふく王くんまんじゅう』を作り、感謝の気持ちを込めて家族にプレゼントしました。

2年生は暑さ対策の為、活動内容を見直し、夏野菜を用いた絵葉書づくり（テーマはふくおう君）に取り組みました。また、1年生は福笑いならぬ「ふくおう笑い」を行いました。低学年にとって、楽しく身近な存在として福島正則公とふれ合う機会となっています。



【5年 zoom 交流学習】



【4年 清洲城見学】



【3年 菊泉院訪問】

イ 農業体験学習

継続事業として毎年1～4年生が学校近くの畑を利用し、地域の農業委員さんのご指導で、サツマイモの植え付けと収穫を体験しています。加えて3年生は、郷土の農作物として有名な越津ネギの植え付けと収穫を体験させていただきました。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモやネギの植え付けや収穫は、とてもよい体験になっています。収穫後には、3年生が絵手紙でサツマイモを描き、農業委員さんに感謝の気持ちを届けました。

ウ 安全マップ作り

毎年6月の引き渡し訓練の下校時に、親子で通学路の危険箇所のチェックをしています。通学団会で、危険箇所を記入した地図を見ながら危険箇所を確認し、児童へ注意を促しています。そしてそれらの危険箇所を、校区の安全マップにフィードバックし、各家庭に配布することで、安全な登下校について意識の向上を図っています。

(2) 豊かな心の醸成と健康づくり

ア 合唱指導

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきました。11月末の「合唱発表会」に向けて、講師を招いて各学年が数回ずつ合唱指導をしてもらうことで、多くの児童が合唱のすばらしさを感じ取り、自信をもって歌うことができました。長年お世話になった講師の方に子どもたちから感謝の気持ちを込めてプレゼントを渡しました。大変喜ばれ、お礼の手紙を頂いたことで、温かな心の交流が生まれました。

(3) 指導力向上

ア 授業力向上の現職教育

今年度は、愛知教育大学の砂川誠二先生を講師に招き、校内現職教育として国語の授業研究を推進しました。ICTの共有機能などを用いて、自分の考えを交流する楽しさを味わわせ、主体的に自分の意見を伝えられる児童の育成を目指し、授業研究を行いました。また、愛知みずほ大学の上井靖教授をお招きし、教員が主導する指導方法を見直すために「ファシリテーション」の技術を学びました。児童の意見を軸とする理論に基づいた授業の構成について、学び、教員の意識改革が行われつつあります。研修や研究授業の後は、付箋紙を用いたワークショップ型の研修に取り組みました。教員同士で活発な意見交換をすることで、主体的な交流や若手教師の研修の機会となっています。

イ 児童理解と心を育てる教育の充実

令和を生きる子どもの理解と対応を学び、保護者とともに児童の支援を行うことができるよう研修をしています。今年度は、講師に臨床心理士の西川絹恵先生を招き、「思いこみって何？～心のクセにきづこう～」 「脳が安心すると聴く力が育つ」という演題で講義を受けました。特に後半の講義は、今日的な児童の特性が深く理解でき、すぐに取り組むことのできる実践的な内容でした。

3 評価と課題

学校評価の中で、教員側からも正則小学校の価値ある活動として「Project MASANORI」を評価する意見が出ました。活動の内容や各学年の生活科や総合的な学習の時間を見直し、今後も児童が正則小学校で実施できる取組や持続可能な取組を検討していきたいと考えています。地域と共に存在し、地域に支えられる、地域を支える学校や児童の育成を目指し取り組みます。